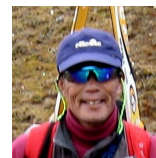


メラピークスキー滑降を満喫する

まえがき

創立60周年記念事業として、ネパールのメラピーク（6476m）登山が決まった。メラピークは、スキー滑降に適した山であることは、ガイドブック等で知っていた。参加しよう。スキーで滑ってみたいと思った。68才の年齢を考えると、単独で滑降する不安はあるが、肉体的にみればラストチャンスかも知れない。そして、その時が来た。



BCで

2008年10月5日 ハイキャンプ→メラピーク→ハイキャンプ

日の出を迎え、エベレスト、ローツエ、マカルーの8000m峰を背にして、スキーとカメラ、ビデオを担ぎ登る。スキー靴にアイゼンは、歩き難い。シールを持ってくれば良かったと悔やむ。次第に疲れから、歩くピッチが遅くなる。最後のピッチは、滑る際の体力を温存したいとサーダーにスキーを持ってもらう。



朝、HCからメラピークを望む

メラセントラル頂上に立った。360°の眺望である。休憩していると、ガスが湧いてきてエベレストが見え隠れする程になってきた。記念撮影して、滑降地点まで下降する。メラセントラル頂上から滑降する積りでいた。しかし、頂上直下に

20~30mの急斜面の下の両側にクレバスがある。滑れなくは無いが、疲労度と安全性からクレバスの下から滑ることにする。

スタート前に腹ごしらえをし、身支度を整え、スキーを着ける。単独滑降の不安はあるが、スタートする。雪質は、どうかな？少し滑ってから緩い登りとなる。スキーが埋る程度で雪は軽い。でも、少しの登りでも息が切れる。ようやく滑降斜面まで登る。幸い視界は良い。登って来たトレースを視野に入れて、探りを入れながら慎重に滑り始める。昨夜降った新雪がターンする度にフワッとした感じでゴキゲン。ターンにもリズムが出て来た。雪面がキラキラ光り、ターンの度にスキーの醍醐味を味わう。滑っては、大きく息をして休む。呼吸を整えてから、また、滑る。大斜面に自分だけのシュプールを刻む。



ゴキゲンで滑ってきた斜面

調子に乗って滑り、息苦しくなって転倒してしまった。安全に滑らなくちゃー。

下るに従い雪が重くなってきた。慎重にターンして行く。アッと思ったら転倒。左足のスキーが刺さって抜けない。もがいていると、サーダーが

下ってきて、助けてくれる。ヤレヤレ。シュテムに切り替え滑る。視界は良く、日が射

して暑い。斜度が落ちてきた。プルーク系で滑る。雪が重いので止りそう。直滑降も怖いのでスキーを脱ぎ、担いで歩く。スキー靴での歩きは辛い。サーダーが追い抜いて行った。ガスが湧いてきて覆い始めた。ハイキャンプがある目印の岩が見えて来た。でも、歩くと大分ある。スキーだと早いのもどかしい。斜度が少しついてきたのでスキーを着ける。ガスで視界が悪いが、トレースは微かに見える。サーダーの黒い姿を目標に、慎重に滑って行く。サーダーに近付いた時、突然左スキーを取られて左に転げ落ちる。シマッタ。スッポリ雪に埋ったが、スキーが下になったので起き上がる。周りを見ると、どうやらシュルンドに落ちたようで周りが雪庇状になっている。浅い所に向って歩き始める。雪が軽く、深くてなかなか進まない。サーダーが顔を覗かせ、ザイルを投げた。体に巻き付け、引っ張ってもら。脱出してホッとす。視界が悪いと怖い。再びスキーを担いで歩く。ハイキャンプに着いた。満足感と疲労が襲う。今日は、ハイキャンプ泊り。石川氏も着いて、登頂を祝う。夜、雪がテントを叩く。

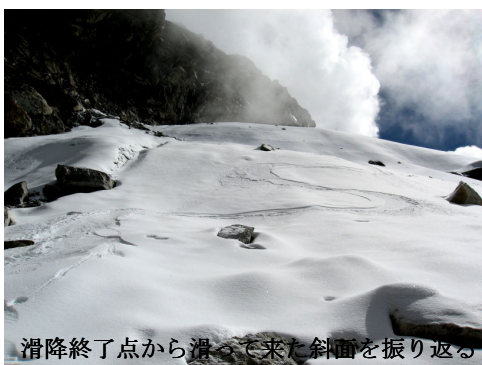
2008年10月6日 ハイキャンプ→カーレBC

朝、素晴らしい天気。ハイキャンプからエベレスト、ローツエ、マカルーが一望される中、BCに向け滑り始める。昨日の失敗を教訓に、ガスが発生しない内に滑ろうと。緩斜度なのでトレースに沿って滑る。雪質は上々。昨日のように息が切れることは無いが、時々止って雪面の状況を確認しながら滑る。メラ・ラはかなり上から直滑降したが、逆斜面の下の辺りまでしか上らなかった。メラ・ラまで10分かからなかった。スキーは早い。



HCからメラ・ラに向って滑る

メラ・ラから振り返ると、ガスが雪面を覆い始めている。危なかった。昨夜の雪と風でトレースが埋って微かにしか見えない。ガスの中、注意しながらトレースを辿って上る。ようやく下りになる。ガスも切れてきた。トレースの左側は、クレバスが多いので左に寄り過ぎないように滑って行く。雪面台地の端に着いた。幸い硬いバーンでターンし易い。トレースは、左に下って行くが、私は、右の岩壁寄り



滑降終了点から滑って来た斜面を振り返る

を滑る。最後のバーンは、部分的に斜度が40～45°はあるだろうか、ジャンプターンを繰り返し、露岩をよけながら滑り、雪が消える滑降終了点に滑り込んだ。

スキーをザックに付け、登山靴に履き替える。ホットコーヒーで一服する。満足感と滑り終えた安心感に浸る。滑降終了点は、シーズン最盛期にバツィになるというカルカの直ぐ上だった。道に出て、カーレBCに向って歩き始める。(鳥切記)